

# 特集 オールシーズンタイヤ



## 過信は禁物 性能の周知徹底も

# “夏も冬も”安心・安全

## 四季を通じ多様な路面に対応

履き替えの手間なく、四季を通じてさまざまな路面環境に対応できるオールシーズンタイヤ。グリップ力や静粛性など夏用タイヤに迫る性能を追究しつつ、万一の降雪時の安心・安全につながる製品として、国内市場でも認知や普及が広がっている。タイヤメーカー各社も性能向上とラインアップ拡充に力を入れており、さらなる市場の成長に期待が集まる。

**非降雪地での認知進む**

冬季に降雪や積雪、路面凍結が多い地域では、スタッドレスタイヤが主役だ。毎年のように道路上で立ち往生がクローズアップされ、高速道路各社ら道路管理者が冬用タイヤ規制の周知を強化してきたことも、普及の追い風となってきた。一方で、降雪の頻度や量に限りのある都市部では、オールシーズンタイヤと

（JATMA、山本悟会長）の小山賢一統計調査部長は「タイヤ市場全体に占める総量はまだまだ限定的だが、国内でも商品が増えてきており、消費者の認知は上がっている印象だ」と話す。こうした傾向は各社の実績にも表れつつある。米大リーグ・大谷翔平選手を広告に起用して大々的に「シンクロウエザール」をPRする住友ゴム工業は「（2025年）は、年初計画を上回る販売本数となった。むしろ今冬は早めの降雪もあり受注が順調に進み、在庫サイズとの兼ね合いで受注残が発生してしまった」と（山本社長）と

## 各社の販売戦略

### 横浜ゴム



BluEarth-4S AW21

### V字ダイバレッジメントグルーブで雪上/ウェット性能を両立

横浜ゴムの乗用車用オールシーズンタイヤ「BluEarth-4S AW21（ブルーアース・フォーエス・エーダブリユー・ニーイチ）」は、優れた雪上性能とウェット性能を両立することも、ドライ性能および耐摩耗性能を確保している。

特徴として、センター部から左右斜め方向に広がる「V字ダイバレッジメントグルーブ」の採用で、

ある。二股に分岐させる設計としたことで、ウェット路面での排水性を高めているほか、V字の溝と交差するクロスグルーブが、路面の雪を固めて排出する。雪柱せん断力が確保でき、雪上性能を高めている。

また、接地面積の確保に有効な幅広トレッドや大型ショルダーブロックによってドライ路面でのパフォーマンスを向上させたことで、操縦の安定

性も高めている。天候に左右されずに安心してドライビングを楽しめる製品として高い評価を受けている。

Xcelにコンパウンドには、シリカを配合してウェット性能を向上させているほか、末端変性ポリマーの配合により雪上性能とウェット性能の両方を向上させた。

また、サイドウォールには、欧州で冬用タイヤとして認証されたヒアスノータイヤ条件に適合した証である「スノーフレックマーク」が打刻されている。全車チェーン規制が行われている場合は、必ずチェーンを装着する必要があるが、冬用タイヤ規制や普通タイヤチェーン規制時では、走行可能なタイヤとして認められている。

人手不足の課題解決にも

とはいえ、その活躍シーンには留意する必要があるのも事実だろう。積雪量の多い路面やアイスバーンでの限界性能には限りがあるほか、チェーン規制の発令時にはスタッドレスタイヤも含め、走行できないことも意外な落とし穴となる。こうした特徴への理解を広めるためには、タイヤメーカーによる周知だけでなく、



く、実際にユーザーと接する販売店の役割も欠かさない。

販売店にとっては、年間2回は確実に到来する交換需要を取り込めず、工賃収入を逸失するデメリットも無視できない。

とはいえ、慢性的な人手不足を背景に、店頭では繁忙期にタイヤ交換に割くことのできるマンパワーが年々、逼迫している。

市場発展に期待

付加価値に見合った適価販売で、クルマ社会の安心・安全を守りながらメーカー、販売店、ユーザーの全員がメリットを享受できるか、健全な市場発展が今後も期待されることだ。

# 青を刻め

まだ、走ったことのない道へ。

## TOYO TIRES



## 各社の販売戦略

### トーヨータイヤ

近年、突発的な降雪や路面凍結、低温と強い雨が重なるなど、天候の不確実性が常態化している。こうした環境下では、従来のように季節ごとにタイヤを履き替えるのではなく、急な天候変化にも対応しながら移動や業務を継続できる点から、オールシーズンタイヤが改めて注目されている。

「CELSIUS(セルシウス)」は、ドライ・ウェット性能を重視した基本設計を維持しつつ、国際基準であるシビアスノー要件に適合。雪

道での走行性能と都市部における通常走行性能を両立し、1年を通して使用できる点を特徴とする。ラインアップは乗用車から商用車、タクシー向けまで幅広い。非対称パターンを採用し、左右で役割を分担する設計としたほか、回転方向を限定せず、自由度の高いローテーションを可能にしている。偏摩耗や走行時のノイズ悪化を抑制できる点も、選ばれる理由になっている。

オールシーズンタイヤの認知度向上に伴い、同シリーズでは、ビジネスバン専用モデルとして「CELSIUS CARGO(セルシウスカーゴ)」も展開。荷物の積み下ろしや高速道路での移動などビジネスバン特有の使用シーンに着目。高負荷時の耐摩耗性を強化した。側面には外傷からの保護を目的としたパットレスデザインを採用している。



### CELSIUS

### 乗用車から商用車、タクシーまで

シリーズのラインアップも拡充している。中でも近年、販売を伸ばしているのがタクシー専用モデルだ。一般的な乗用車に比べ走行距離が長くなる使用環境を想定し、専用コンパウンドの採用によって耐摩耗性を高めた。大雪時でも冬用タイヤへ履き替えることなく都市部での運行が可能となる。タクシー会社での採用が進んでおり、今後の市場の拡大も見込まれる。

### 住友ゴム工業(DUNLOP)

DUNLOPの次世代オールシーズンタイヤ「SYNCHRO WEATHER(シンクロウエザー)」は、天候による路面の変化に合わせてゴムの性質が変化する新技術「アクティブトレッド」を搭載。ドライ・ウェット・氷上・雪上などあらゆる路面に対応し、

「水スイッチ」は、ポリマーを通常の共有結合から一部をイオン結合に置き換え、水に触れるとポリマー間の結合がほどけてゴムの接地面が柔らかくなり、乾燥すると再結合して剛性が復活する。

「温度スイッチ」は、グリップ成分の一部をポリマーから切り離しても機能する材料に置き換え、低温環境でも柔らかさを維持。高速道路の冬用タイヤ規制でも走行可能な「スノーフレックマーク」と、国際的な水上性能基準「アイスグリップシンボル」が付与されている。パターndeザインでは、最新のシミュレーション技術を活用したV字溝設計を新開発。夏用タイヤと同等の静粛性能と耐摩耗性能を両立した。2025年10月より軽自動車向け14インチを含む24サイズを追加。全100サイズのラインアップとなり、軽自動車・コンパクトカー・セダン・SUV・ミニバン・スポーツカーなどの幅広い車種に対応可能となる。同社は、こうした製品ラインアップの強化も契機として、拡販につなげる。



### SYNCHRO WEATHER

### 路面に合わせてゴムの性質が変化